

## 令和5年度第3回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和5年6月20日（火）15:30～17:30 評議会室

出席者：井手理事長、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、林理事、上原理事、  
山本監事、元永監事

事務局：澤野事務局次長、山田総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、  
川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、山中地域連携・研究支援課長、  
堀江高等専門学校開設準備室室長、前田課長補佐、藤居主幹

令和5年度第2回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）は、一部修正のうえ承認された。

### 議 題

#### （審議事項）

##### 1 令和4事業年度における業務の実績に関する報告書（案）について

寺村経営企画課長から、資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

〔主な意見・質疑等〕

- ・（計画番号45に関して、）半導体不足等の状況はあるが、日没後の学内の防犯・安全確保のため、街灯の設置について検討願いたい。
- ・（計画番号1に関して、）日野町や中小企業家同友会とは具体的にどのような取組を行ったか。  
→ 日野町とは協定に基づき、日野町をフィールドとして地域課題を掘り起こし、その解決策を考える講義（地域デザインB）を実施した。このような取組は日野町以外にもできる限り広げていきたい。中小企業家同友会とのリカレント教育では、企業の抱える課題の解決、例えば企業内起業や新規事業をうまく運営するためにはどのようにすればよいか、ということを考える授業を実施した。
- ・（計画番号44に関して、）コンプライアンスについては研修参加率100%は当然であるというところまで意識レベルを高めていただきたい。
- ・（計画番号24に関して、）生涯学習プログラムの取組について学内から否定的な意見が上がっていたが、自己評価はⅣでよいか。  
→ 受講者数はコロナ禍以前の水準に戻っていないものの、コロナ禍が続く中で受入れの態勢を整えたことを考慮して、オンラインによる公開講義等についての自己評価をⅢとし、リカレント教育はⅣと評価し、総合的にⅣの自己評価とした。

##### 2 令和4年度決算および事業報告（案）について

高木財務課長から、資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

〔主な意見・質疑等〕

- ・教育経費比率と学生当たり教育経費が同規模校に比べて低いのはなぜか。  
→ 教育経費の内訳としては、奨学金が最も多く、これは他学と大きく変わらないが、報酬・委託・手数料の割合が本学では他学よりも大幅に低くなっている。例えば実習先への委託料、

講義室の保守点検、健康診断、講師等への謝金等がこれに該当する。

## (報告事項)

### 1 第4期中期目標(素案)について

寺村経営企画課長から、資料に基づき説明があった。

[主な意見・質疑等]

- ・「教育研究組織のあり方の検討等」や「教養教育等の充実」について、具体的な方向性は示されているか。あるいは、それらは大学に任されているのか。
  - 県から具体的な提示はない。大学に任されており、第4期中に検討していくものである。
- ・高専を作ることの意義は理解する一方、若者が減少していく状況下で準備が進められていくことに懸念がある。
  - 中期目標の中の学部・学科再編には入学定員の見直しも含まれており、これも18歳人口減少に対応するものである。
- ・「働き方改革」が挙げられていることについて、新たな改革に取り組もうとすると業務量が多くなり、限られた人員体制のままでは、働き方改革の趣旨と矛盾する。設置者である県に対して、職員の充実・確保を要請すべきではないか。
  - 県に対して、できるだけ強く要望していきたい。

### 2 滋賀県立高等専門学校整備事業に係る実施方針(案)骨子について

堀江高等専門学校開設準備室長から、資料に基づき説明があった。

[主な意見・質疑等]

- ・インフレが続く中で、計画が遅れば遅れるほど費用も増えていき、入札不調の事態も懸念されるので、予算は十分に確保していただきたい。
  - 物価スライドの分については入札公告の段階で再計算して予算は確保できる見込みである。

### 3 令和4年度卒業・修了予定者の進路状況等について

川分学生・就職支援課長から、資料に基づき報告された。

[主な意見・質疑等]

- ・県内就職率を見ると県外に出ていく卒業生が多い。滋賀県の魅力付けをする教育が必要ではないか。
  - 社長講義の開講など努力はしているが、流出過多の状態になっているので、なお県内就職の魅力向上に努めたい。

## (その他)

### 1 朝食支援企画の実施について

川分学生・就職支援課長から、資料に基づき報告された。

## (その他の意見)

- ・ChatGPTにはどのような対応をしているか。
  - 本学としてはChatGPTの使用を禁止はしないが、内容が正しいものかどうか確認してから使うこと、情報をいかに適切に使うかにより能力は測られるものであることを学生に指導し、教員

に対しても情報の使い方の重要性を喚起した。今後は ChatGPT の発展や教員から報告の状況を見て、必要に応じて追加のコメントを発信していきたい。

- 若者が減少していく中で高専を作ることの展望を教えてください。

→ そのような懸念を持っている方は多いと思われるので、広報を考えていく必要がある。

ただし、高専の入学定員は 120 人で、滋賀県内の中学 3 年生の 1% 程度に過ぎない。高専を目指すのは、明確な目的意識を持った学生に限定されるので、18 歳人口の減少がそのまま影響するとは考えていない。

- 高専について、県が決めたからと流されてしまっているように感じている。立地はどうして野洲なのか具体的なメリットが見えず、また防災上の危険性はないのか等の疑問を持っている。

→ 立地については、一定の面積が確保できること、周辺環境やアクセスがよいこと、近隣に製造業の大企業があること、防災面でもハザードマップ上浸水の危険性の小さいこと等を考慮して選定された。共同研究をしている県内企業が県南部に立地しており、その面でも彦根より野洲の方が有利である。

これまでは県で決められることが多かったが、これからは大学法人が中心となって、カリキュラム等の中身の検討していくことになる。